

富士山の価値と クライテリア（評価基準） 世界遺産登録、 その先に向かつて

富士山のクライテリア

西村 富士山の価値や今後の課題について話していきにあたり、まず最初に世界遺産申請で適用したクライテリアの（iii）（iv）（vi）について簡単に説明します。

まず（iii）ですが、これは、富士山は信仰の山として唯一無二の存在であるということですが、世界中にはたくさんの信仰の山があります。遠くから遙拝する信仰の山もあれば、チベット仏教やヒンドゥー教などの聖地であるチベットのカイラス山のように見えない山もあります。ヨーロッパの信仰の山の大半は、そこにある宗教施設などが重視されます。

中国の信仰の山は日本と似ているところもありますが、日本では原始的な宗教、信仰、修道などが混ざり合い、死の世界である山に登り返ることは、死と蘇りであるという思想があります。山に登ること自体が神仏の霊力の獲得と疑死と再生の体験であり、富士山への遙拝・登拝・巡礼はそれ自体が宗教行為である。そうした信仰の山のスタイルは非常にユニークです。（iv）は、富士山は神聖な「名山」として日本の景観の代表であり、富士山によって日本と日本文化を象徴する「名山」のイメージは確立されたということです。特に、富士山の景観が信仰と深く結びついているということが重要です。

（vi）は、そうした非常に美しい姿を持つ富

士山が、古くから日本固有の詩歌や物語文学に描かれていて、葛飾北斎や歌川広重などの浮世絵に代表されるように、近現代の芸術作品のモチーフとして大きな影響を与えました。ヨーロッパのジャポニズムの原動力になったり、いろいろな図案にも富士山が使われたことで日本のイメージが確立したということもあります。以上をまとめますと、富士山の特色は信仰の山であり、芸術に影響を与えた山だということです。この二つがきちんと言える山はそれほど多くはありません。しかも、一二世紀くらいから現在まで、さまざまな活動が続いている信仰の山は世界でも稀です。

クライテリアとは、世界遺産の登録にあたっての評価基準のこと。

詳細は巻末を参照。

(iii) 現存するか消滅しているかわからず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）である。

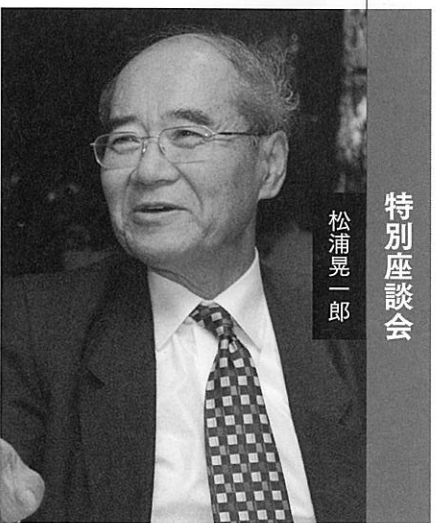
(iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。

(v) あるひとつの文化（または複数の文化）を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。

又は、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本である（特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまれているもの）

(vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）。

(vii) 最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。



自然遺産としての富士山と富士山への信仰

岩槻 富士山の麓にある浅間神社のご神体は、そもそも富士山そのものであったといわれています。鎮守の森もそうですが、日本人が古くから持っていた八百万の神への信仰は自然そのものへの信仰ですから、元来、富士山という優れた景観そのものをご神体にしていきます。

氏神様はすべて鎮守の森におおわれているのは、日本人はもともと森を信仰していたため、鎮守の森自体が信仰の対象になってきたからです。中国でもお寺は深山幽谷にあります。それは泰山や峨眉山のような自然の中に寺院を置いて、自分の信仰心を高め、悟りを開くために入っていくという思想です。日本では八百万の神にすべての人が接触する森が信仰の対象だから、そこに建屋、つまり社を立てました。

鎮守の森はしばしば朝鮮の「一堂」や中国の「社稷」と比較されますが、社稷は秦の時代から五穀を祀る神で、抗争に敗れると負けた部族の文化を破壊するために徹底的に破壊されました。日本では自然そのもの、森そのものを祈るという姿勢があり、それが室町以降に富士講のようなものにつながり、江戸時代になるとたくさんのお庶民がお詣りに行くようになりました。中国の峨眉山や五台山とは違うユニークさがある

と訴えることは大切だと思います。

松浦 お二人の話をうかがっていてまず思うのは、富士山はもっと早く申請すべきだったということです。中国は一九八七年に初めて六つの世界遺産を登録しましたが、その一つは中国が重視している泰山でした。当時はまだ文化遺産と自然遺産のクライテリアは別々でしたから、それぞれのクライテリアを適用し、そして複合遺産として申請しています。これが中国の世界遺産の第一号になりました。ちなみに第二号が万里の長城です。中国人にとって泰山は、日本人にとっての富士山と同じような意味がある山です。こうしたことから見ても、富士山の申請はちよつと遅すぎたくらいです。

西村 富士山を暫定リストに入れようという話は早い時期からありました。ただ、環境の問題などがあり、なかなか暫定リストに入れられま

富士山の「普遍的価値」

五十嵐 あえて少しネガティブなことを言わせてください。

まず、富士山を世界遺産にしたいという時に、世界のいろいろなもの比べてなぜ富士山が世界遺産になるのかという、多くの人が納得できる説得力が必要だと思います。というのは、最近「なぜこれが世界遺産なのか」と疑問に感じるような例もあるからです。

その意味で、私は自衛隊の演習場の問題が気になっていのですが、その前に、富士山を信仰の山という時の「信仰」とはなんでしょうか。富士山の信仰は、例えば、高野山や平泉の信仰とはかなり違います。この信仰に命をかけるというようなこともあります。富士講は独特な信仰の形態なのかもしれませんが、神道や修験道の影響も強いのでしょうか、それだけを見れば、例えば出羽三山の方がはるかに信仰の山としての強さを感じます。

西村 富士山の信仰はいろいろな信仰の形態を経ながら現代に至っているわけですが、距離的に江戸に近かったため、強力な富士講の仕組みを形成してきました。それは、ある種のリクリエーションと信仰を混ぜたようなものであり、富士吉田の集落があり、浅間神社があり、そこ

せんでした。富士山の課題の一つは、トイレやごみがひどく、環境的に汚染されているということでした。しかし、大変熱心に清掃登山が行われ、いまではごみは見られなくなりました。トイレはすべてバイオトイレに変え、かつてのようにあふれかえってトイレトパーの筋が山肌に残るようなことはなくなりました。山小屋のサーブিস水準や利用者へのもてなしには改善の余地があると思いますが、多くの人達の努力によってわずか一〇年くらいの間に、誰もが納得できる環境に改善されてきていると思います。

開発と「アゾーン」の狭間で

岩槻 二〇〇三年に環境省と林野庁が自然遺産の登録も積極的に行うべきだということで選定委員会を作った時に、自然遺産の最終候補から富士山が漏れた理由の一つは、西村先生がおっしゃったごみ処理の問題です。ただし、自然遺産としての富士山という面では、別のクライテリアが問題でした。富士山の麓には開発がかなり進んでいる地域があり、どこまでをコアゾーンとするかという線引きが難しいのです。私は富士山が大好きですが、IUCN（国際自然保護連合）の評価を満たすのはかなり難しく、中

をお参りして富士山に登り、降りてきて時間があれば忍野八海廻りをするというように、全体のプログラムができていました。こうしたことは、いろいろな信仰の中でも非常にユニークです。

また、これは大衆の信仰です。少数者が命をかけて修行するのではなく、何万人という人が行くような修行のあり方、信仰のあり方は非常にユニークだといえます。しかも、いまでも夏の二か月間だけで年間三〇万人以上の人がご来光を拝むために六時間もかけて登り、山麓には二千万人の人が訪れています。近代アルピニズムとはまったく違う登山のしかたがいまも続いている、これは富士山への信仰がいまも生きて



富士浅間神社

国四川省の「ジャイアントパンダ保護区」では、パンダの住んでいる地域の住民を転居させたりしています。日本ではそんなことはできませんから、最終候補の一九の中にはリストアップしなくても、そこから先に進めなかったのが現実です。

しかし、世界遺産の最終候補として挙げられなかったから富士山の自然がよくないのかというと、そうではありません。山麓の洞穴や植生の自然状況は知床や小笠原諸島よりも一段上です。IUCNが自然のユニークネスだけを評価するのであれば登録できると思います。ほとんど開発されている地域であるにも関わらず、まだプリミティブな自然の要素が残っている点もきわめてユニークです。ただ、それで自然遺産の対象になるかというとなかなか難しいところです。

西村 開発されている地域と自然が残っている地域がまだら模様になっていますから、自然遺産としては難しい。今回の構成資産について少なすぎると感じる人がいるかもしれませんが、バッファゾーンにたくさんさんの工場がありますし、遊園地の巨大ジェットコースターもあります。観光開発もありますから、そういったものをどう扱うか、検討に検討を重ねて最終案になったわけです。

いる証拠だと思えます。

岩槻 空海のように悩み悩んだ上で悟るような信仰もあるでしょうが、富士講に参加することは、南無阿弥陀仏と唱えることで救われるのと同じように、それによって大勢の人が幸せになるという信仰です。それは悪いことではないと思えます。

五十嵐 もちろんそうですが、問題はなぜそれが世界的な価値と言えるのかということです。

岩槻 宗教への考え方の違いがあるのかもしれませんが。欧米の宗教学者のうちには日本人は宗教心が乏しい国民だという人もいます。それは欧米の一神教的な宗教心が宗教であると思っているから宗教心が乏しく見えるのであって、日本人は現代でもなおアニミズムを持っていません。私は、アニミズムがいけないというような宗教的な判断には納得しかねます。

明治維新まで、日本列島は大型から中型までの動物に一つも絶滅種を出しませんでした。これは客観的な事実として世界では稀有なことです。それくらい日本人が自然と共生してきたのは、やはり日本人の八百万信仰があったからです。キリスト教のような一神教的な宗教が日本列島をおおっていたら、そういうことはありえなかったはずですが。

五十嵐 小さな女神があり、集落の守り神があ

り、鎮守の森がある。それはわかりますが、それではそれぞれの宗教の説明にすぎません。世界遺産に登録されるには、それが世界的に優れていることを証明しなければなりません。そうでなければ、世界にはさまざまな神があり、さまざまな信仰があるということで済んでしまいます。

もう一つ、富士山は名山である一方で自殺の名所です。なぜ日本人はあそこで自殺するのでしょうか。信仰の山が一方で自殺の場所になっているということはどういうことなのか、そういうことも私たちは考えていく必要があると思えます。

西村 信仰に関して付け加えますと、富士山固有の浅間信仰では溶岩が流れて止まったあたりに浅間神社が置かれています。恐ろしい溶岩が止まったのは、何らかの力によって止まったのだから、止まった先に浅間神社を建てたのです。そこから祈りが始まり、浅間神社というスタイルができ、日本中に広がって、いまでも全国に二千くらいの浅間神社が残っています。それら一つひとつは小さなことかもしれませんが、ユニークな類型の一つであることは間違いありませんし、その全体像には「顕著な普遍的価値」があるわけです。

は「類まれな自然美・美的価値を有する地域」という一節があります。芸術作品に富士山が取り入れられたのは富士山が美しいからです。信仰の山になったのも、富士山の美しさがあったからでしょう。(vii)の自然美を文化遺産として取り入れてもいいのではないか、というのが私の考えです。

世界遺産のクライテリアはかつて(i)～(vi)までが文化遺産で、(vii)～(x)が自然遺産と分けていました。しかし二〇〇五年に統合されて、現在では(i)～(x)が文化遺産にも自然遺産にも当てはまることになりました。しかし、実際には依然として(i)～(vi)は文化遺産、(vii)～(x)は自然遺産という適応になりがちです。富士山で文化遺産に(vii)を適用する先例を作るのはどうでしょうか。

富士山の美とクライテリア

岩槻 私も(vii)を使うのはいいと思います。自然の観点からだけでいいとすると、IUCNの評価に応えるような(vii)の評価は厳しいかもしれません。しかし、富士山の景観はやはり芸術的な感動を呼びましますし、宗教的な感動を呼びまします。自然というのとはもともとそういうものだと思います。

クライテリア(vii)の文化遺産への適用

松浦 私は、中国の泰山が自然と文化の複合遺産であるように、富士山も本来は複合遺産として登録すべきだと思います。しかし、開発が進んでいる状況を見れば、複合遺産はかなり難しいというのわかります。そこで、(vii)を適用した文化遺産とすることを考えるべきではないでしょうか。

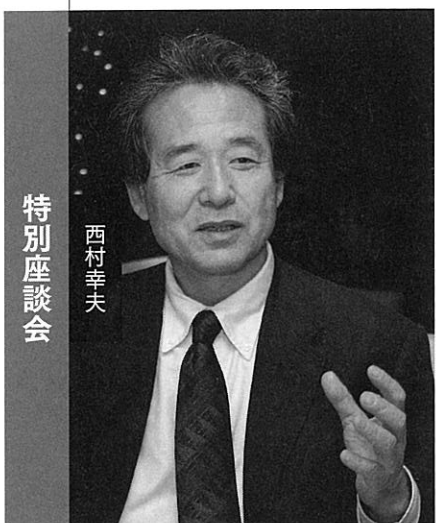
中国の泰山には(i)が入っていますが、(i)の「人類の創造的な傑作である」という文言には、かつては「美しい」という概念が入っていました。歴史的に言うところ、ユネスコ憲章が作られた一九四五年当時は、文化とは芸術的な価値のことでした。世界遺産ができた一九七二年でも文化を狭く解釈されていて、「芸術的な価値を持つ」ものとして考えられていました。それは一般的に言えば「美しい」ということです。

その後、文化はもっと広く解釈されるべきだとされ、一九八三年のメキシコ会議を境に、文化は芸術的な価値だけでなく人間の生きざまや生活様式にまで、考えが広がるようになりました。これに呼応して、(i)から美的価値を除きました。

富士山でも文化を狭く解釈して「美しい」という概念を入れるのは間違いですが、(vii)に

富士講は、誰かに指導されたものではなく、庶民が富士に憧れた信仰です。江戸には富士山に行けない人のために作られた小さな富士山を作り、そこに登ることもできました。人びとがそこまでの憧れを抱いたのは、やはり富士山の美しい景観に感動したからです。富士山の優れた自然景観が日本人の八百万の神に対する信仰とどこかでマッチしていたからこそ、江戸百万の人達が無理をしても富士講に参加したわけですね。

私は、文化の多様性を作るのは人の遺伝子の多様性ではなく、そこに生きている人が自然と接触し合うことによって作り上げてくるから多様な文化になると考えています。文化的な多様性の背景には自然があります。富士山についても、素晴らしい景観だからこそさまざまな優れた文化が作り上げられてきたのだと思えます。



西村幸夫

特別座談会

(vii)を使えなかったこと、文化的景観を言えなかったことは非常に残念だと思いますが、適切な判断だったと私は思います。

松浦 文化的景観の扱いについては私も賛成です。文化的景観は、そもそも、ニュージールランドのマオリ族という先住民が信仰しているトンガリロという山を救うために作られた概念です。この山は一九九〇年に自然遺産に登録されましたが、ニュージールランド、特にマオリ族から見

岩槻邦男



松浦 IUCNは、小笠原諸島ではクライテリ
アの(Ⅷ)と(x)を落としました。(ix)で通っ
たからよかったものの、知床で(x)を認めな
がら小笠原諸島で認めないのは理解しにくい
ですね。

岩槻 そういうことは、日本からもう少し主張
してもいいと思います。

富士山の最大の課題

五十嵐 もう一つ、私は富士山麓にある自衛隊
の演習場が気になっています。世界遺産の中の
広大な地域が軍事演習場になっているという
は、世界遺産の精神に真っ向から反すると思
います。自衛隊については少し前まで合憲か違憲
かといった議論がありました。いまではもう
日本国民全体で議論することをやめてしまい、
なすがままになっています。その曖昧模様が、
そのままそっくり富士山の麓に残っているとい
うのが私の印象です。この問題を避けずに、む
しろ少しでも深めるような議論をすべきだと思
います。

松浦 自衛隊の演習場は大きな問題ですが、い
ますぐ撤去することはできませんから、文化庁
と防衛省が話し合い、イコモスの指摘を受け入
れながら検討していくしかないと思います。

るとトンガリ口は単なる自然遺産ではなく、第
一には信仰の対象です。しかし、「信仰の山」
という概念がなかなかイコモスに理解されな
かったために、「文化的景観」という概念を導
入しました。彼らが文化的景観を推したのは、
山とマオリ族の伝統的な踊り以外に物的な形を
した文化的な要素がなかったからです。伝統的
な踊りを救うために文化的景観を考えたといっ
てもいいかもしれません。

世界遺産は当初、史跡や景勝地といった「点」
で登録していましたが、だんだん点の集合体
になり、最近はある一定の面積をもった地域に
なってきました。文化的景観はまさに「面」
であり、景観も含めた全体像が非常に重要です。
逆にいえば、ある面積の中に少しでも欠点があ
れば全体としてマイナスに評価されます。その
意味でも富士山に文化的景観を入れなかったの
はよかったです。

「自然」と「Nature」のギャップ

岩槻 富士山を自然遺産として議論していたと
きには、(Ⅶ)についてはほとんど取り上げら
れませんでした。それは、日本では「自然」と
いうと山川草木、「緑豊かな場所」という意味
ですが、西欧人が使っている「Nature」という

言葉は「原始自然」、純粋にプリミティブな自
然を意味しているからです。日本では「自然豊
かな里山」という表現がありますが、里山は
プリミティブな自然ではなく二次的な自然で
す。その意味では「自然遺産」という言い方と
「Natural Heritage」とはズいぶんニュアンスが
違うわけです。日本でいわれる「緑豊かな自然」
は評価されないことを前提に考えなければなり
ません。

西村 世界遺産の中の自然は「原生の巨大な自
然」ですから、日本的な感覚でいう「自然を守
る」や「自然と接点がある生活」からすると極
端にハードルが高く感じますね。

岩槻 小笠原諸島が候補にあがった時に外来種
が問題になりました。外来種がたくさん入って
いると「自然」はあっても「Nature」でないか
らです。

日本陸軍の演習場になり、戦後は米軍基地に、
さらに自衛隊の演習場になったという経緯があ
ります。演習場がある忍野村では、これに対し
て長い間大きな抵抗運動がありました。農民た
ちは明治以来、ずっと入会権を主張してきまし
た。その結果、東京地方裁判所も入会権がある
と認めていますし、政府も認めざるをえないの
で補償費を払って使用を続けています。

入会権の原点は、あの山はみんなの山である
ということ。現代の言葉で言えば「総有」
ということ。私は、いずれは演習場の土地
も総有に向かっていく、つまり富士山は一体で
あるということに向かって日本国民は努力す
る、そのプロセスが世界遺産であると表明して
はどうかと考えています。いまずとはいいま
せんが、最終的には撤去をする、世界平和に向
けた道筋を見せるという論理です。それを単に
思いつきではなく、富士山をめぐる入会権運動
や演習場返還運動などを踏まえて論理づける。
そうすれば、富士山という世界遺産を市民が共
有できるようにあります。

矛盾を抱えながら矛盾を越える

西村 世界遺産の近くに軍事施設や原子力発電
所があるところもあって、そういうものをどう

扱うかについては常に議論があります。世界遺
産の登録ではそうした矛盾は必ずしも珍しくは
ありません。大切なのは、矛盾を抱えていたと
しても、その矛盾をいかにプラスの方向に向け
ていく努力をするかということです。世界遺
産が矛盾を解決する力になることもあります。
ある意味で、富士山を本当に守れるのかどう
かは、世界に対する日本の宿題でもあるわけ
です。例えば、世界遺産になってさらに大勢の人
が来れば富士山の景観が崩れてしまうかもしれ
ません。それも自己矛盾です。そうならないモ
デルを日本が作れるのかどうかを世界は見て
いる、そういうことではないでしょうか。

岩槻 世界遺産を目標とする議論をすることに
よって、いろいろなものが動きます。富士山で
ごみが綺麗になったことはその一つです。私
はそのことだけでも意味があると思います。演
習場の問題も同じで、常に喉に刺さった棘のよ
うな問題意識は持たないといけないと思いま
す。しかし、それが解決しなければ前に進めな
いという問題でもないのではないのでしょうか。
なぜなら、世界遺産の登録は一つの通過点で、
登録された後で何をするのかに関わってくるか
らです。

松浦 世界遺産に登録してからが新しい出発で
あるということは、みんなわかっています。

私がユネスコの事務局長だった時に、海外の
方々から「なぜ富士山は日本の世界遺産に入っ
ていないのか」という質問を何度も受けました。
それは、世界から見ても富士山が日本のシンボ
ルだからです。理論づけはしっかりしなければ
いけません。世界遺産が人類全体の大切な遺
産であるならば、なぜ富士山が入っていないの
かというのが多くの人の気持ちです。演習場の
問題をイコモスがどう評価するかはわかりませ
んが、おそらく、これによって富士山全体を否
定することにはならないと思います。

五十嵐 私がこの問題にこだわるのは、ユネス
コとは何かということに関わると思うからで
す。ユネスコの発端は、端的にいえば戦争を止
めるためでした。

松浦 ユネスコは、人の心に平和を作ること
で戦争をやめようということから始まりました。
国連はPKOその他で物理的に早く戦争をやめ
ようとしています。ユネスコは長い時間軸を
視野において、徐々にそちらに向かっている
と考えています。

五十嵐 だからこそ「文化」の意味があるわけ
です。

私は、演習場を今度どうしていくかを明確に
して、世界平和に向けた道筋を見せることが必
要だと思っています。北富士演習場は、明治半ばに

少なくとも世界遺産が最終目標だという関係者はいないでしょう。富士山にしても、地域の人達はその価値をしつかり守り、発展させていかなければいけないと思っっているはずで。

岩槻 ただ、一部では観光客がたくさん来ると考えている人たちもいます。私は、世界遺産に登録するということは、そこに来る観光客へのサービスの問題ではなく、世界遺産に登録することによって富士山の良さを世界にどう発信していくかということだと思います。静岡県は富士山に関する研究センター的なものを作ろうとしていると聞きましたが、私はそうした場で「富士山学」とでもいうような統合的な視点の学問を作り、国内に向けても世界に向けても発信して欲しいと思います。

世界遺産を守り育てる市民の力

五十嵐 富士山では市民の存在が非常に大きいですね。さきほどから話題になっているトイレやごみの問題の解消には、市民が大きく関わりました。今後の維持管理についても、これだけ広大なところを市民なしに行政や法律だけで保全することは不可能です。市民に開放しなければ維持管理ができないという意味でも、市民の存在をもっと表に出すべきではないでしょう

か。

世界遺産は、国家やそれに準ずるような誰かが守っているのではなく、市民によって守られるべきものです。まだまだ市民の力は小さいと思いますが、日本の世界遺産の歴史の中に市民が主役として登場してくるという意味で、富士山が新しい地平を開くことはできるのではないのでしょうか。もっと言えば、富士山が世界遺産になる価値として、市民の位置付けを考えることが重要だと思います。富士山の信仰が庶民から生まれたことの意味は、そういうことだと思います。

松浦 いまのご指摘は非常に重要ですね。
西村 初期の世界遺産登録は、書類を書くことまですべて国がやっていましたから、地方自治体が動かなくても登録できました。ところが、自分たちがやったという気持ちがないので、まだに問題意識が薄いところがあるのも事実です。その意味でも、自分たちで努力をすることが大切です。

未来志向の世界遺産

五十嵐 鎌倉も世界遺産登録を目指しているわけですが、建長寺や円覚寺のような目に見える史跡にまず注目します。クライテリアに合わせ

努力すればよくなるということが重なってくる

ことが大切ですね。
五十嵐 そこが一番重要だと思います。富士山も同じで、世界遺産という目標を掲げることによって市民ががんばることが重要だと強調したいわけです。クライテリアは世界遺産に登録するための一種のテクニクとしては必要ですが、登録のためにクライテリアを当てはめていくと、富士山を輪切りにしているような感じがしなくてもない。そこにとどまってしまうと議論や運動が収束してしまふ。

日本はこれから少子高齢化が進んで、年金や社会保障をどうするかというのを含めてさまざまな不安に包まれています。このような暗い未来の中でどうやって日本人がプライドを持って生きていけるかと考えると、私は地域の美しさによって自分たちのアイデンティティを誇れることが一番重要だと思います。極端なことをいえば、日本列島全体を世界遺産にするというくらいの骨太な少子高齢化社会への設計図があってもいいはずで。

岩槻 コンサベーション・インターナショナルというアメリカを中心に活躍しているNGOが、「日本列島は先進国で唯一、生物多様性のホットスポットである」世界二三箇所の一つに認定しています。その意味では、日本列島全体

が世界遺産になるくらいビジョンをもつてもおかしくありません。

五十嵐 ユネスコの究極の哲学は、世界全体がテーマにして、そうした大きな議論をすることもできるはずでし、そういう視点から考えれば、富士山から新しい世界につながるような豊かなものが生まれてくるはずで。

西村 世界遺産というは何百年、何千年を経た史跡や自然の保全や維持というように視線が過去に向かいやすいのですが、未来に向けた世界遺産について考えることを忘れてはいけませんね。

るためには物理的な形が必要でし、禅のように外国人にもわかりやすいものが取り上げられがちです。しかし、かつて鎌倉大仏のあたりにあった極楽寺では、忍性や叡尊といった僧侶が癩病患者の救済を行っていました。このことは鎌倉仏教の理解のために非常に重要だと思えますし、そういう視点から見ると鎌倉文化の見方も変わってくるかもしれません。こうしたことをもつと意味深く掘り下げて、「だから世界遺産なのだ」と言わなければいけないのではないのでしょうか。

平泉についてもクライテリアの議論がいろいろありましたが、私は、当時の人々は中尊寺金色堂や毛越寺のような極楽浄土に行きたいというだけでなく、この世を浄土にしたいと願ったのだと思います。金色堂や毛越寺はある種のシンボルで、もっと人々の生活が楽になるように、戦いをしなくて済むように、あるいは京都の朝廷に対して平泉の自治を確立するということがあったはずで。そうしたことをみんなが理解すれば、平泉の価値はさらに上がるし、そういうことを発信すれば日本の文化に対する見方ももっと豊穡になります。

西村 いま平泉で生きている人達にもそうしたことが実感でき、なおかつ、いまは全然違う町の姿だけでも、いまの町もそちらに向かって



五十嵐敬喜
特別座談会

いがらし たかよし
弁護士、法政大学法学部教授。元内閣官房参与(→P. 94)。

いづき くにお
兵庫県立人と自然の博物館館長、東京大学名誉教授(→P. 116)。

にしむら ゆきお
東京大学教授、東京大学副学長。日本イコモス国内委員会委員長(→P. 9)。

まつうら こういちろう
1937年、山口県生まれ。61年、米国ハヴァフォード大学経済学部卒。外務省入省後、経済協力局長、北米局長、外務審議官を経て94年より駐仏大使。99年より第8代ユネスコ事務局長を務める。書著に『ユネスコ事務局長奮闘記』(講談社)、『国際人のすすめ』(静山社)など。